

目標達成計画

作成日: 令和 6年 11月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	24	○これまでの暮らしの把握 ケアプラン作成に当たっては、ご本人の意向を「思いの聞取り」を行って窺った上に、ご家族様のご意向も反映させて作成している。 しかしながら、入居時の希望の多くは、「元気に暮らす」「安心して暮らす」「あいむでの生活に慣れて暮らし続ける」が大半である。 「認知症対応型共同生活介護」であるグループホームあいむでは、共同生活の場において認知症への対応を行うために、家政作業の分担や趣味活動の時間において個人能力を発揮していただいているが、ご本人の「これまでの家庭や地域での暮らし」で培った生活能力を活かしきれていないかもしれない。	あいむ入所以前の家庭や地域における役割等の情報を活用して、本人の役割の維持・拡充を図り、持っている機能を今以上に発揮していただく。そのことにより精神的落ち着きの向上と、仲間と一緒に過ごす時間を一層充実したものとしていただき、楽しい生活に繋げる。	①第一弾として、あいむ入居から1～2か月の方2名を対象に、入所以前の情報をご本人・ご家族から収集する。 具体的には、認知症と診断される以前の生活における家庭や地域における本人の役割と活動内容を把握する。 さらにそうした役割をできるだけ担い続けるうえで捉えるべき認知症の影響の現れ方を把握する。	1.5ヶ月
				②現在の生活における実行状況、役割を活動内容について、新たに収集した情報と照らし合わせて比較検討する。そして、その活動があいむでの楽しい生活に繋がっているかを観察する。 合わせて、ご本人との「思いの聞取り」も行う。	1.5ヶ月
				③新たな情報、新たな「思いの聞取り」を基に、 (ア)個人能力を発揮できる役割と活動内容を計画、 (イ)あいむでの楽しい生活向上に繋がる生活設計を計画、 をQC会議にて協議を行う。 協議にて策定した生活案をQCメンバーにてテスト実行を行う。	1.5ヶ月
				④テスト実行した生活案についてQC会議にて評価を行う。 ⇒ 良い場合 = 他職員にも新たな生活案を説明して実行してもらう。 ⇒ 良くない場合 = 再度新たな生活案を協議しテスト運営を行う。	2.5ヶ月
				⑤他の入居者、新たな入居者についても入所以前の情報を出来るだけ収集して、新たな生活案を考察し実行を繰り返す。	

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。